

会議録

会議の名称	第1回加東市滝野地域小中一貫教育推進協議会
開催日時	平成27年10月27日(火) 19時00分から20時28分まで
開催場所	加東市役所 2階 201大会議室
<p>議長の氏名 (委員長 芹生一二)</p> <p>出席及び欠席委員の氏名</p> <p>【出席委員】 13人</p> <p>芹生一二委員 小林喜代治委員 西山豊委員 甲山友和委員 時井秀人委員 藤川大介委員 阿江正幸委員 藤川貴博委員 黒崎泰則委員 藤原哲史委員 浜口大介委員 尾崎高弘委員 小林美穂委員</p> <p>【欠席委員】 0人</p>	
<p>説明のため出席した者の職氏名</p> <p>【教育委員】</p> <p>大島巧男教育委員長</p>	
<p>出席した事務局職員の氏名及びその職名</p> <p>教育長 藤本謙造 教育部長 堀内千稔 教育総務課 課長 大橋博英 同 副課長 柴崎俊之 同 主幹 山本幸平 学校教育課 課長 登光広 同 副課長 平川真也 同 主幹 藤原良二 同 主査 青木敢也</p>	
<p>議題、会議結果、会議の経過及び資料名</p> <p>【議題】</p> <p>(1) 委員長、副委員長の選出について (2) 加東市の小中一貫教育について (3) 今後の活動内容について (4) その他</p>	
<p>【会議結果】</p> <p>(1) 委員長に芹生一二委員、副委員長に黒崎泰則委員を選出しました。 (2) 資料③から⑦に基づき、事務局から説明を行いました。 (3) 先進地視察について、審議しました。 (4) 意見交換を行いました。</p>	

【会議の経過】

1 開会

2 教育長挨拶・自己紹介

3 委員長、副委員長の選出について

委員長に芹生委員、副委員長に黒崎委員を選出

4 報告

(1) 加東市の小中一貫教育について

事務局から資料③～⑦に基づき、事務局から説明を行いました。質疑なし。

5 協 議

(1) 今後の活動内容について

〔事務局説明〕

(委員長)

今後の活動の内容についてということで、この推進協議会で先進地を視察しようという御意見ですが、この件につきましては私も同感します。やはり現場へ行って物事を見るほうが内容的なものが非常に把握できるのではないかと思いますし、各委員さんも御意見があると思いますが、この先進地視察を踏まえながら今後小中一貫教育を進めていきたいと思うのですが。

研究会でこの視察等を踏まえられた委員、こういう視察関係でいい面があるとかそこら辺の御意見があったらお聞きしたいと思います。

(委員)

3校ほど視察には行きました。学校は、御存じのように教職員だけでは到底子どもたちを教育することはできません。そんな中で、それぞれの一貫校が工夫をされているところが非常に印象に残りました。例えば、地域住民との連携、あるいはつながりを大事にするというところでは、3校なり、4校が一緒になって小中一貫校になったら、正面玄関を入ったところのガラスケースにそれぞれの学校の校歌であるとか、あるいはその成り立ちであるとか、そういうふうな大事にしてこられたものを展示し、それがずっと並んでいて、なぜそのようなことをしたかということを知ると、地域の人がこの学校に集まって来られたわけですが、元はこの学校ができるまでにはこういう歴史があったということで、地域の方がそこでそれを見ながらいろんな話をされるというふうな工夫をされたところもありました。

それから、小中の教職員ということであれば、先ほど事務局から教職員の意欲であるとか有効なことを言われましたけれども、とにかく学校をつくるに当たっているところなどで参画するというふうなところがうまくいっているように思いました。例えば、保健室一つにしてもそうですし、あるいは教室の間取りであるとか、それから通路であるとか、プールの位置であるとか等々、それぞれ工夫が小中一貫校にはありました。そういうふうな教職員の意見を取り入れたり、あるいは地域の

皆さんの意見を取り入れたりというふうなことで、小中一貫校を設立するに当たっては地域丸ごとで、全ての人が参画できるようなことが小中一貫校を成功させる鍵なのかなということを感じました。

(委員)

研究会のほうで堺の学校を視察に行きましたが、その学校は道路を挟んで小学校と中学校が隣接している学校でした。その学校は、小中一貫教育が条件的に大変やりやすいという学校でしたので、参考になる点もありましたが、加東市に当てはめるとそういう地区はないので、もっとできるだけ加東市に近い状態のところを視察できたらと思います。

P T Aの研修会でされていましたが高松にしても、校区が狭い中での学校を一つにした一貫校で、今、加東市がやろうとしていることに対しては少し違うような気がしますので、できるだけ加東市がやろうとしているのに近い学校があれば、そういう学校を見たほうがより参考になると思います。

(委員長)

今の両名からお話がありましたように、現場を見るというのが一番大事だと思うのですが、皆さんどうでしょうか。こういう会合の中で説明を受けても、頭に入っていくというのはちょっと抵抗あるのではないかと思いますし、できたら現場へ行って本当に実施されるところを見たほうがもう少しわかりやすいと思うんですが、どうでしょうか。皆さん、こういう計画を進めさせていただいてもよろしいでしょうか。

〔異議なし〕

(委員長)

それでは、視察に関しまして、今、委員からもお話がありましたように、できるだけ加東市にマッチする、ある程度こういう加東市の状態を掌握できるような視察先があれば、事務局、案がございませうか。

それと、視察に行くということになれば、教育ですから土曜日、日曜日は無理なので、やはり平日ということになりますが、若い保護者の方々どうでしょうか。御参加することは難しいですか。できるだけ現場を見てもらうほうが本当に親身になって物事が考えられると思いますが、ひとつ前向きに考えていただきたいと思います。

事務局、視察案ですか、そういうものがあれば御報告いただきたいと思うのですが、日程とか。

(事務局)

今、委員からも貴重な御意見いただきました。加東市にマッチしたというお話があったのですが、私どもも今までそういった視点で加東市にマッチしたような先進地はあるかなということで探しました。加東市レベルのところでは、廃校して新たな学校を建てずに、吸収というところはたくさんあります。

例えば、極端な話、3つの小学校があつて山間部の小学校があつて下に一つ中心になる学校があつて、そこへ廃校して全部持っていき、小中一貫でやっているところもあります。ただ、これは私どものモデルではないです。私どもは、3つがあつたら新たな学校で新たな学校文化をつくろうと、学校を新設しようと思っておりますので、吸収の統合ではございません。それではどこがモデルになるのかとなりましたら、今、委員がおっしゃいましたが、当然、皆の力で地域も協力して学校をつくったというところがモデルです。

加東市とどこが違うのかと言いましたら、スクールバスを使うのかどうか。ただ

し、1時間かけてバスで乗ってくるということは加東市内では考えられません、子どもが考えている学校では。全てバスにするのかはどうかと、例えば一部歩く。

教育委員会で考えてございますのは、これは議会でも説明しましたが、半径3キロ以上をバスの対象としています。ただしそうしたら5キロ歩く子たちを全てバスに乗せるのかということは、子どもは地域の方々の御意見を聞いて、例えば2キロはバス、3キロは徒歩とか、今まで集団登下校をやっている意味もありますので、上級生が下級生を連れて歩いていくというのは教育的効果は高いと思っております。

そのようなところを考えましたら、結局は通学の問題だけでありまして、それ以外には加東市に合う、子どもが理想としている教育をしている学校というのは、新たな学校をつくってされている高松とか、今から申し上げるような学校も子どもがモデルにしたい学校です。地域性ではなくて、先ほど言ったように本当に私たちが目指したい学校を見ていただければ、私たちがどんな思いでこれを進めようかというところを御理解していただけるのかなと思っておりますし、今から御提案を申し上げます。

先ほど言いましたように、行かれたときにちょっと町並みが加東市と違うねというようにところも当然ございます。ただ、教育の理念は子どもがモデルにしたいと思っておりますので、今から申し上げるところを提案したいと思っております。

まず、一番気になっていらっしゃる日ですが、2つの日程の中から選んでいただくということで御無理を申し上げます。日につきましては、11月13日の金曜日もしくは11月16日の月曜日になります。どちらかで都合のいいところ。もしかしませんでしたら、御自身のお仕事の都合等、公務の都合等で無理な場合もありますので代理の方、例えば私のかわりに行ってくださいと、御家族の方でも結構です。是非行っていただきたいと思っております。

場所ですが、11月13日は京都市の凌風学園という学校、11月16日は同じく京都市の東山開晴館という学校です。どちらも小中一貫校の施設一体型の学校です。

都合のよい日に参加していただくのですが、他の地域、明日は東条で行いまして、金曜日は社地域でやりますが、その方々にも同じ提案をさせていただきます。行くのは社、滝野、東条の合同でどちらかに行ってくださいということとしております。行っていただいた後に、見られたときに、例えば思われたこととか効果があると思ったこと、逆にこれはどう解決しているのかというような不安もあると思っております。そういったことを見られたその日にこちらに戻っていただきまして、意見を出していただき、第3回目の推進協議会のところでその意見を集約しましたら、他地域の方々の意見もそこに含まれますので、皆様方の協議の参考になるかと思っております。

2回目は、今申し上げた日で視察に行って、帰ってきてから2時間程度の会議をさせていただきます。3回目にそういった課題についてとか、成果についてまとめていただいたものを事務局からお示しをして、4回目ぐらいには、例えば滝野地域であったら場所的には、こういうところに建てたほうがいいのではないかと、建てるにはいつごろと。

例えば、先ほど言いました平成40年という当初案でした場合、今から12年後になります。先行校は33年に開校しましたら、もしその滝野地域が先行校ではなかったとしたら開校までに7年あいてしまうことになります。教育行政として、やはり7年間、同じ教育をしない、できないということは子どもとしてもということで、平成40年の案というのを一旦皆さん方の御意見を聞いて決めるということにしてございます。ということで、少し長くなりましたが、京都市の凌風学園と東

山開晴館ということで。

(委員長)

凌風学園と東山開晴館の生徒数はどれくらいなんですか。

(事務局)

平成27年度で凌風学園が生徒数759名、大体各学年3クラス平均で、東山開晴館が890名、こちらも大体各学年3クラス平均とお考えいただけたらと思います。

(委員長)

各委員には、後からまた文書等で日程等の御通知があると思いますので、とりあえず11月13日、また11月16日の予定だけを入れておいていただきたいと思います。よろしいでしょうか。

[異議なし]

(委員長)

それでは、今後の活動内容についてということで、一応先進地視察をやるということをご各委員に御了解を得ましたので、できるだけ早く事務局のほうで対処していただきたいと思います。

それでは、協議事項の2番目のその他ということで、事務局、何かございますか。

(2) その他

(事務局)

今日、御質問等がなかったですので、なかなか各委員様方の御意見等をお伺いする機会がなかったのですが、今、特に小中一貫教育のことについて、保護者の中で何かお話等が出ているのかどうかというような情報をいただければうれしいのですが、どうでしょうか。

(委員長)

保護者の方、順番に何かそういう小中一貫教育に対しての御意見等、保護者会等の中で御意見等があればいただければと思います。

(委員)

今回初めて小中一貫教育推進協議会のほうに出席させていただいており、内容がどういったものなのか、それからこの先どういった協議を進めていくのかという点に関して、まだ少し把握しきれていない部分がありましたので、一応役員会には議題を提出させていただきまして、一度御家庭で話し合ってくださいというふうには通達しております。

この先は保護者会として、園長先生、職員の皆様に説明しながらここに出席させていただいたことを報告し、保護者会を代表してきているという立場で、皆さんからの意見をすい上げ、それから質問事項等を確認させていただきたいと思っております。

(委員長)

一応、今の内容ですと、まだ具体的な話も出ていないということですか。

(委員)

はい。

(委員)

私も同じように、まだ具体的な話はまだ何もわかってない状況で今回参加させて

いただいたのですが、何点か質問があります。

小中一貫で成功例は出てきて、不成功例という言い方は悪いですが、それに関してはあまり提示されていないということで、今日、話を聞かせてもらってすごく不安を感じております。小さい1年生、2年生の子どもが、中学生2年生、3年生の大きなお兄ちゃん、お姉ちゃん、いい子ばかりだといいいのですが、やはり不良の子もいますし、優等生の子、いじめられっ子、いじている子、いろんな子がいると思います。その辺、萎縮してしまうんじゃないとかということも今心配していますので、成功例の学校を見に行くだけではなく、不成功例、失敗したところ、具体的な学校名は挙げなくてもこういう事案がありましたとかというのがないとちょっと実感が湧きにくい。私がここにいる以上は賛成派ということになってしまいそうな気がして。私も勉強不足なのでどうこう言えるような立場ではないのですけれども、今のところ中立な立場として言わせてもらうなら、不成功例をもっと知りたい。

それから、見学に行くのは13、16日で、日程的にかなりタイトです。私たち、仕事をしていますので。まず、基本的には子どもたちがよくなるためにという意味で私も参加させてもらっているのですが、子どもたちに御飯を食べさせられなければここに来る意味もないですから、もうちょっと早い目ということか、そういう情報提供があってもいいのかなとは思っています。

(委員)

小中一貫教育ということに関しましては、今日参加させていただいておおむねの内容を聞かせていただくことができました。いろんなお話も伺わせてもらって一番感じているというか、教育という部分に関して、先ほど委員の話もあったと思うのですが、学校の教師のみならずということで、地域、また保護者全体を入れて学校づくりをしていこうということは非常にすばらしいことじゃないかなというふうに思っています。ただ、教育現場で実際に子どもたちに直接触れ合っって人間教育をしていくというのは学校の先生が非常に大きなウエートを僕は占めているというふうに思っております。

今回の小中一貫教育推進の中で、今までの経過の日程表の中に9月4日の金曜から18日の金曜の中に教職員対象説明会というのがございます。実際に教職員の前にして説明をしていただいたというのがあると思います。もちろん初めてのことと思うのですが、小学生の教員の方、中学生の教員の方がその説明会を聞いて、実際どういう反応だったのか。個々の先生の考え方とか教育理念とか現場でやってもらえるとは思いますが、今、来られている方は主幹の方とか校長先生だと思うのですけれど、現場でやられている方はどういうふうに感じておられるのかなというふうに思います。実際それをリードしていくのは教育委員会であるという形で資料にも書いてあるのですが、そこら辺をまた教えていただければなというふうに思います。

(委員)

特にまだ小中一貫教育ということについて具体的に話し合ったりということはないです。園児のほとんどが地区外の子どもが多いです。それで、このまま地区から小学校に行く子どもが学年によっては半分いなかったりとかそういうような状況ですので、本当に保護者ということになると、これから自分たちが行く小学校というのがどういう形になるのかというのは不安には感じているかなと思います。

個人的な意見としましては、小中一貫の新しい学校の場所、やはり通学というところは心配で、多分そういうところは保護者の皆さんが一番不安に感じているところではないかなとは思っています。今日、説明があったような小中一貫でどういう教育をしていくかということに関しまして、知らしめていくことで皆さん理解していく、そこから意見も出てくることなのかなと思いますので、また持ち帰って保護者

会のほうで話して、意見を聞きたいなと思っています。

(委員)

特に保護者の意見を吸い上げているわけでもないです。ただ、個人的な意見としては、前年度を含めて、今年度こういった会を含めてフォーラムも出席させてもらい、正直自分の子どもが行くわけでもない年にはなるんですけども、今この時点で私はどうこう言うつもりもないです。不安もありますけども。その辺に関しては先ほど言われたように、今の時点で新設をされると言われていたので、ハード面をしっかりといただけたら。ソフト面に関しては後づけでも、それは教育者、また地域の方がしっかりと組み立てていけばいいわけになると思います。今日この会に出席させてもらっている以上は協力を含めて私も勉強させていただきたいと思います。

(委員)

保護者の雰囲気というか、聞く限りにおいては、説明のあった時点では平成40年ということなので、まだ先というのか、実感がないというのが大方の感覚かなというところ。それでも、いろいろな人に私自身も個人的に聞いた感じでは、滝野の場合は、中学校でどうせみんな一緒になるのでそんなに違和感はないという感じがあったことと、逆に今の小学校の雰囲気がいいものですから、また違う文化になることがどうかというところの意見の方もいらっしゃいます。

私自身は、今日の推進協議会の中でちょっと響いた言葉があったのは、新たな学校文化をつくるというその事務局の考えがすごくいいなと思いました。これから新しい学校をつくっていくところが重要と、地域をつくっていくことが重要と思います。

それと、新しい学校文化というか、新しい、いい学校文化ですよ、それをつくるには質のいい準備期間というか、しっかりと準備期間が必要かなと思いますので、それは一体どのぐらいの期間にすべきなのかというところを決めれば、40年と待たずにいつできるかというところになるかなというふうにはちょっと思いました。

(委員長)

ありがとうございました。特に保育所の保護者の方々については説明的なものが少ないということとか、今後でもできるだけこういうわかりやすい資料、またこの説明を続けることが大事だと思うし、具体的にはまだ保育所の親へは説明というのはそんなにないのですね。

(事務局)

資料の3の中で、8月22日から23日になるのですが、各園単位ではないんですけれども、就学前のお子さんをお持ちの保護者の説明会、3地域、滝野、社、東条を会場といたしまして、それぞれ保護者の皆さん全員に案内状をお配りさせてもらいまして、この3会場のうちどこでも構いませんから来ていただきたいという小中一貫教育の説明会は開かせてもらっております。ただ、出席はあまりよくないというのは確かなんですけれども、一応こういうふうな場も設けさせてもらったというのが今の状況になっております。

(委員長)

今後こういう推進協議会の中へも委員として入っていただいて、とりあえず現地視察して全体的なものを把握して、また園のほうでいろいろお話ししていただいたらいいんじゃないかと思います。

そのほか、何かございますか。

(事務局)

それでは、今、各代表の方から御意見いただきましたので、お答えできることで

あったりとか、今の説明会の話も含めて何点かお話を差し上げます。

まず、未就学児対象の説明会をしたのですが、PR不足といいますか、認知不足のため、参加が少なかったので、今回各地域でこういった推進協議会を持つことによって保育園の保護者の方々に入っていただくことで、先ほど委員からもありましたけれど、広めていただけるということですので、当然いつやるかとか、どこでやるかが決まっていけば住民の意識が高まっていきますので、そのタイミングをもってまたそういった説明会もやっていくべきかと思っております。皆様方には、そういったPR役も務めていただけたら非常にうれしいと思います。この会議の内容の御報告もあわせてしていただけたらと思っております。

それと、先ほど不成功例の話があって、特に中学生の荒れた状態ということでありました。文部科学省の会議の中で、それは実は議論されています。統計的には26年度の時点なんですけど、全国で1,130校が小中一貫教育をしています。その中で、中学生における生徒指導上の問題が小学生への影響が課題だと答えた学校があります。1%、11校。それで、それが年々取り組みを進めていくことによって大きな課題があるとかというのは減ります。当然、最初はそういったことはあり得ます。

極端な話、生徒指導上大変な課題を抱えている学校があったとして、そこが小中一貫をしたとします。1年目は当然、そういったこと、あり得ますよね。でも、小中一貫教育の取り組みを進めればそういったことが解消されていきます。それは今度是非、先進校へ行っていただいて生の声とか先生方の声とか子どもたちの様子を見ていただければ。保護者の関心が非常に高いたらということはおそらくわかっております。是非、そういったところを視察していただけたらなと思っております。

それをクリアする責任が私たちはありますし、5年かけて準備をして先行校でうまくいくように、ただ、1年目からすぐ効果が出るかというのは、それはそういうのを目指しますが、そういうことは十分に知っているということをお承知いただければと思います。

次に、教職員のアンケートの意識の話があったと思います。実は8月に一度教職員対象の研修会をしているのですが、そのときに小中一貫教育の推進について理解できると答えた教諭は6割です。残りは、理解できない、もしくはわからないという答えでした。その一番の理由が何かと伺いましたら、提言の中で出ておりました自分たちが今、毎日子どもに必死で向き合っているのに、この小中一貫教育をする準備のためにその力がなくなってしまう、時間に余裕がなくなってしまうということです。新しいことをするのですから、当然そこに向かってエネルギー使いますよね、それで本当に、5年後の開校がうまくいくとしても、それは本末転倒でしょという意見です。

それを9月の説明会で教育委員会が小中一貫教育をこういう理由でやる、先生方にこういうことを期待しています、だから一緒にこういう学校をつくりましょうと、そのためにはある程度の負担を当然していただきます。ただし、負担軽減の方法は私どもとしても考えるというふうな話を差し上げました。そうしましたら、推進理解できるが6割だったのが7割になりました。推進に理解できないと答えた者が2割減りました。ということは、教員がいい教育をしたいというのは当然なんです。ただ、その課程は本当に大丈夫なんですか、今やるべきことに比べてというのは当然教員なら不安に思います。私どもは、来年から小中一貫教育をやると言っていない、5年かけて十分準備期間を経てやっていきますのでということで説明をしております。そういったところを今後も教員に対して説明をしていけば、教員は当然小中一貫教育の理念であったり、理想としている、私たちが有効と考えていることは理解できると考えております。今後もそういったことをやっていきたいと思

ます。

いずれにせよ、私どもは、要はよりよい学校をみんなでつくりたいという思いです。教育をよくしたいためにこういった方法をとっているわけですので、それを何年間もかけて準備なり周知なりしていきたいと思っております。

(委員長)

具体的にはまだ、ピンとこないかもしれませんが、とりあえず1回現地に、本当に小中一貫をやっているところでそういうことを1回見ていただいて、帰っていろいろと検討していただけたらありがたいなと思うんですが、よろしく願いいたします。

ほか全般を通じて何かございますか。

(委員)

私どもの任期は3月31日までということで、そこで一旦終了となるわけですが、来年度の会長が再度この場に出席するのかどうかというのは保育園の規定の中にはありません。その辺は御理解いただけるのかどうかというところを質問させていただきます。

(事務局)

まず、委員の任期は1年とする、ただし再任は妨げないというふうにさせてもらいまして、この平成27年度に関しましては発足が途中でしたので、この要綱の附則のところでは施行後最初任命する委員は皆様方になりますが、任期は平成28年度3月31日までというふうにさせてもらっております。

これは保育園を代表するというふうになっておりますので、私どものほうからは是非とも会長さんというものではないです。園を代表してもらうのであれば別に副会長さんでも構いませんし、いろんな役職もおられるかもわかりませんし、園の中でこの会に参画してもらえる代表は誰ということで構いません。そういうふうなことでお願いできたらと思います。よろしく願いします。

(委員)

もし次年度、ここの出席を役員さんないしそれに準ずる方たちが拒否された場合、そこに僕の影響力は届きませんので、それだけは御理解していただきたいというところでは。

(委員長)

ほかに何かございますか。

なければ、事務局へバトンに移したいと思います。

どうも御協力いただきありがとうございました。

6 事務連絡

7 閉 会

【資料名】

資料① 加東市小中一貫教育推進協議会設置要綱

資料② 加東市小中一貫教育推進協議会委員名簿

資料③ 小中一貫教育に関するこれまでの経緯

資料④ 加東市小中一貫教育研究会 中間報告書

資料⑤ 加東市のめざす小中一貫教育

資料⑥ 小中一貫教育の推進について

資料⑦ 「加東市公共施設の適正化に関する計画」(一部抜粋)

平成27年12月11日